

開催報告

未来ビークルリサーチセンター第7回シンポジウム 「未来ビークル実現の鍵を握る電池技術」

未来ビークルリサーチセンター 環境コア
電気・電子工学系 教授 櫻井 庸司

地球環境に優しい未来ビークル実現に向けて、大幅な燃費向上・CO₂排出量削減に威力を発揮する高性能二次電池・燃料電池が注目を集めています。このような背景の下、平成19年12月10日に本学において、「未来ビークル実現の鍵を握る電池技術」と題して、未来ビークルリサーチセンター第7回シンポジウムを開催致しました（別添プログラム参照）。

本シンポジウムでは、リチウムイオン電池の研究開発において第一線でご活躍中の外部講師3名をお招きし、ご講演頂きました。まず始めに、リチウムイオン電池の生みの親でありその功績から紫綬褒章を授与された旭化成・吉野氏からその開発秘話・将来展望を伺いました。続いて、環境先進ビークルへのリチウムイオン電池の実際の適用に関し、ハイブリッド自動車用電池の開発ならびに電気自動車への応用展開について、日立ビークルエナジー・堀場氏、三菱自動車・宮下氏にそれぞれご講演頂きました。

また燃料電池に関して、高温・低加湿条件でも発電特性の良い新規電解質膜と、電極触媒の高担持を可能とする新しいナノカーボン材料についてそれぞれ、本学・松田教授ならびに滝川教授から最新研究成果の紹介が行われました。

当日は、学外から61名、学内から52名、計113名の参加者があり、質疑応答においても活発な議論がなされ、盛会のうちに講演会を終了致しました。

末尾ながら、本シンポジウム開催に当たりご協力頂きました関係各位に厚くお礼申し上げます。



旭化成(株)・吉野氏



日立ビークルエナジー(株)・堀場氏



三菱自動車(株)・宮下氏

別添

豊橋技術科学大学 未来ビークルリサーチセンター 第7回シンポジウム

「未来ビークル実現の鍵を握る電池技術」

- 日時：平成19年12月10日（月）13:20～17:00
- 場所：豊橋技術科学大学 A2講義棟 A2-101
- 主催：豊橋技術科学大学 未来ビークルリサーチセンター
- 後援：豊橋市、田原市、豊橋商工会議所、田原市商工会
- 協賛：電気学会東海支部、電気化学会東海支部、IEEE名古屋支部、電気化学会電池技術委員会

時間	プログラム	講演者
13:20～ 13:25	開会の辞	豊橋技術科学大学 学長 西永 頌
13:25～ 13:30	未来ビークルリサーチセンター紹介	豊橋技術科学大学 未来ビークルリサーチセンター センター長 福本 昌宏
13:30～ 14:15	【講演1】 「リチウムイオン電池の過去、現在、そして未来」	旭化成（株） グループフェロー、吉野研究室室長 吉野 彰 氏
14:15～ 15:00	【講演2】 「車載用リチウムイオン電池の開発」	日立ビークルエナジー（株） 設計開発本部 主管技師 堀場 達雄 氏
15:00～ 15:10	休憩	
15:10～ 15:55	【講演3】 「電気自動車の可能性と課題 -i MiEVの開発-」	三菱自動車工業（株） 技術開発本部 MiEV 技術部 宮下 拓也 氏
15:55～ 16:25	【講演4】 「燃料電池用新規電解質」	豊橋技術科学大学 物質工学系 松田 厚範 教授
16:25～ 16:55	【講演5】 「ナノカーボンの合成と燃料電池電極への応用」	豊橋技術科学大学 電気・電子工学系 滝川 浩史 教授 桶 真一郎 助教
16:55～ 17:00	閉会の辞	豊橋技術科学大学 副学長 小林 俊郎